

指導事例3

古典の世界について調べて発表しよう

1 単元について

第1学期終了時に生徒に授業評価アンケート（[資料1](#)）を行ったところ、「今後、授業で教えて欲しいこと・学びたいと思うこと」という項目で、敬語、婚姻、人々の生活、物の怪、より多くの作品を学びたい、などの回答が数多く出された。そこで、生徒が疑問を持ったことや、興味・関心を持ったことについて、「関連する文章や作品を調べたり読み比べたりする」などして、自分自身で調査・考察し、発表することが、内発的動機をさらに高め、「生涯にわたって古典に親しむ態度を育てること」につながると考え、第2学期に本単元を設定した。

新学習指導要領における「古典講読」は、まとまりのある古典を読み味わうとともに、関連する文章や作品を調べたり読み比べたりすることや古典の現代語訳などを適切な範囲で取り上げることなどによって、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てることを目指している。このように「古典講読」は、生徒の実態や興味・関心に応じて発展的な学習を展開しやすい科目である。

2 単元の指導目標

- (1) 班毎に研究テーマについて話し合わせ、テーマを設定させる。
- (2) テーマに応じた資料を集めて必要な情報を読み取らせ、調査、考察内容を的確にまとめさせるなどして、テーマについての考えを深めさせる。
- (3) 他の班の発表の資料の内容を的確に読み取らせ、発表をよく聞いて自分の考えを深めさせる。

3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
① 疑問・興味・関心を持ったことについて、自ら進んで調べ、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりしようとしている。	① 資料の内容を叙述に即して読み取っている。 ② 資料から必要な情報を読み取り、ものの見方や考え方を広げたり深めたりしている。	① 古典の理解に役立てるための資料を調べ、その内容を理解し、知識を身に付けている。

4 指導と評価の計画（全6時間）

＊努力を要する生徒に対する手立て

次	時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における評価規準と評価方法
一	1	① 単元のテーマ、学習目標、学習内容、評価の観点等を理解する。 ② グループ分けをする。 ③ 考察するテーマを設定する。 ④ 自己評価する。	○ 積極的に意見を述べさせ、活発に話し合わせる。 ○ 適切なテーマを設定させる。 ○ テーマ設定の理由を明確にさせる。 ＊授業中の助言、授業後の面接。	関心・意欲・態度 - ① 積極的に話し合いに参加し、テーマを設定しようとしている。 (学習プリントの記入状況・自己評価カード 資料2 ・観察)

次	時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における評価基準と評価方法
二	2 3	①テーマに応じた資料を図書資料やインターネットから収集し、必要な情報を選択し、考察した内容を的確にまとめる。 ②テーマについての考えを深める。 ③自己評価する。 【テーマ】 I 平安時代の恋愛と婚姻 II 物の怪 III 名前 IV 敬語 V 平安時代の衣食住 VI 言葉	○前時の自己評価の結果を踏まえて、本時の学習について助言する。 ○テーマに応じた資料を収集させる。 ○テーマに応じた資料から必要な情報を読み取らせ、調査、考察内容を的確にまとめさせる。 ○テーマについての考えを深めさせる。 ＊授業中の助言、資料の例示、授業後の面接。	関心・意欲・態度 - ① テーマに応じた調査、考察をしようとしている。 (学習プリントの記入状況・自己評価票資料2・観察) 読む能力 - ① テーマに応じた資料から必要な情報を読み取り、調査、考察内容を的確にまとめている。 (学習プリントの記入状況・自己評価票資料2・観察) 知識・理解 - ① 調査、考察内容を理解し、テーマについての考えを深めている。 (学習プリントの記入状況・自己評価票資料2)
三	4	①読み取った情報を的確に活用し、レジюме(資料5)・発表原稿を作成する。 ②自己評価する。	○前時の自己評価の結果を踏まえて、本時の学習について助言する。 ○読み取った情報を的確に活用させ、レジюме・発表原稿を適切にまとめさせる。 ○レジюме・発表原稿など、場に応じた言語の使い分けをさせ、まとめ方を工夫させる。 ＊授業中の助言、授業後の面接。	関心・意欲・態度 - ① 読み取った情報を的確に活用し、ものの見方や考え方を広げたり深めたりしようとしている。 (自己評価票資料2・レジюме・発表原稿・観察)
四	5	①他の班の発表をよく聴き、レジюмеの内容を的確に読み取って、古典の世界に関する理解を深める。 ②自己評価する。	○前時の自己評価の結果を踏まえて、本時の学習について助言する。 ○他の班の発表をよく聴かせ、レジюмеの内容を的確に読み取らせ、自分の考えを深めさせる。 ＊授業中の助言、授業後の面接。	読む能力 - ② 他の班の発表をよく聴き、レジюмеの内容を的確に読み取り、ものの見方や考え方を広げたり深めたりしている。 (レジюмеへのメモ記入状況・自己評価票資料2・観察)
五	6	①レジюмеの内容を的確に読み取り、より適切にまとめ、古典の世界に関する理解を深める。 ②自己評価する。 ③授業評価する。	○前時の自己評価の結果を踏まえて、本時の学習について助言する。 ○レジюмеの内容を的確に読み取らせ、より適切にまとめさせて、自分の考えを深めさせる。 ＊授業中の助言、授業後の面接。	読む能力 - ② レジюмеの内容を的確に読み取り、適切な表現でまとめ、ものの見方や考え方を深めている。 (レジюмеへのメモ記入状況・自己評価票資料2・観察)

5 成果と課題

(1) 成果

①主体的な活動場面を取り入れた指導による古典に親しむ態度の形成

生徒は、テーマについて、「話し合い」、「調べ」、「まとめ」、「発表する」という課題解決型の学習に、主体的、積極的に取り組んだ。こうした言語活動が、生徒の古典学習に対する意欲を喚起するのに有効であることが再認識された。また、この学習を通して、これまで以上に古典に親しむ態度が形成されたことが、自己評価票の自由記述欄の内容(資料3)から見て取れる。

②自己評価の活用による生徒の変容及び授業改善

学習状況を振り返って自己評価させたり、観察による評価を生かして助言や指導をしたりした結果、生徒には従来に見られなかった変容が見られた。ほとんどの生徒が、授業中に調べきれなかったことを放課後図書館で自主的に調べたり、教師に質問したりするようになった。生徒の中には、発表を伴う調べ学習という条件によって動機付けがなされた者もいただろうが、生徒が自己の学習活動の状況を理解することによって、「関心・意欲・態度」が形成された様子が、自己評価票の自由記述欄の内容(資料3)から見て取れた。

第1時に行った自己評価の記入状況を総合的に見ると、〔A：若干名、B：過半数、C：なし〕という結果であった。生徒の中には、ワークシートの記入状況が良好で、授業中だけでなく放課後なども意欲的に課題に取り組みながらも、謙虚さゆえか、あるいは教師に遠慮してかBと自己評価する女子(資料4-1)が目立った。こうした生徒には、実態を踏まえた助言を与えたことにより、次時以降は自己を的確に評価することができるようになった。

また、指導の必要がある生徒(資料4-2)に対しては、授業中に助言をしたり授業後に面接による助言を行ったりした。次時の授業の導入段階においても、前時の自己評価の結果や活動の実態を踏まえて、生徒への助言を心掛けた。この繰り返しにより、生徒は主体的に学習に取り組むようになった。

(2) 課題

①評価方法の工夫

第5時の発表の際に相互評価を取り入れ、互いの発表のよい点を認め合うことで、学習の達成感を味わわせる場面を設けてもよい。

参考文献

- ・高等学校学習指導要領解説 国語編(平成11年12月) p104 参照

- 1 授業の難易度について

①易しすぎる (0)	②易しい (0)	③ちょうどよい (15)	④難しい (8)	⑤難しすぎる (0)
---------------	-------------	-----------------	-------------	---------------
- 2 授業の進行について

①遅すぎる (0)	②遅い (1)	③ちょうどよい (18)	④速い (4)	⑤速すぎる (0)
--------------	------------	-----------------	------------	--------------
- 3 教師の説明について

①わかりやすくてうまい (20)	②まあまあ (3)	③あまりうまくない (0)	④わかりにくくて下手 (0)
---------------------	--------------	------------------	-------------------
- 4 教師の板書について

①見やすくわかりやすい (18)	②まあまあ (5)	③あまりよくない (0)	④見にくくわかりにくい (0)
---------------------	--------------	-----------------	--------------------
- 5 教師の熱意について

①強く感じる (18)	②感じる (5)	③あまり感じない (0)	④まったく感じない (0)
----------------	-------------	-----------------	------------------
- 6 授業内容に対する興味・関心について

①とても持った (16)	②持った (7)	③あまり持たなかった (0)	④まったく持たなかった (0)
-----------------	-------------	-------------------	--------------------
- 7 総合評価

①とても高い (18)	②やや高い (5)	③やや低い (0)	④とても低い (0)
----------------	--------------	--------------	---------------
- 8 1学期、古典講読の授業を受けての感想(例)

○今まで、古典は難しいし、昔の人が書いた文章なんて分かるわけがないと思っていたけれど、古典をじっくりやってみると、そんなことはないんだと実感しました。授業でやった作品の中で、私は「桜の精」がとても好きになりました。最初のうちは読んでも意味が全く分からなかったけれど、授業を通して、内容をしっかりと理解でき、昔の人の恋愛の物語で、とても感動しました。これからはいろいろな話をちゃんと理解できるように頑張りたいと思います。特に、敬語が難しいので、敬語についてもっと勉強したいと思います。

○古典は、助動詞とかあって、文章が複雑で、漢字も難しく、読みづらくて大変でした。でも、何回も音読して、すらすら読めるようになったり、主語がなくて、意味が全く分からなかった文章を、辞書で調べたりして、口語訳できたときはとてもうれしかったです。「桜の精」を初めて読んだときは、人物名しか分かりませんでした。授業を通して、なんとか、理解することができました。この物語が理解できたことから、古典をおもしろいと感じるようになり、古典に興味がわきました。

○私は、古典講読の授業を受けるまで、古典は難しいだけの授業だと思っていました。しかし、実際に授業を受けてみると、確かに難しいのですが、朗読できたときや、本文を訳し終えて、内容が理解できたときは、とてもうれしくて、その達成感はとてもいいと思います。また、昔の人が書いた物語を読むと、昔の人がどのような考え方をしていたかなどを知ることができて、とても勉強になりました。私は、古典講読の授業を受けて、古典にとても興味を持つことができました。

自己評価票 1

資料 2

☆第1時限の目標

古典講読の授業を通して、疑問に思ったこと・興味をひかれたことについて、自ら進んで意見を述べ、積極的に話し合いに参加して、自分たちの調査・考察するテーマを決定する。
(テーマ設定の理由を明確にすること。)

項 目	評 価		
1 学習目標・学習内容・必ずやらなければいけないこと・評価の観点について理解できた。	A	B	C
2 古典講読の授業を通して、疑問に思ったこと・興味を持ったことについて、自ら進んで意見を述べ、積極的に話し合いに参加できた。	A	B	C
3 テーマ設定の理由を明確にし、自分たちの調査・考察するテーマを決定できた。	A	B	C
本時の感想			

自己評価票 2

☆第2時限の目標

テーマに応じて資料を収集し、資料の内容から必要な情報を読み取り、整理してまとめ、テーマについて自分の考えを持つ。

項 目	評 価		
1 テーマに応じて資料を集めることができた。	A	B	C
2 集めた資料から必要で適切な情報を的確に読みとり、整理してまとめることができた。	A	B	C
3 テーマについて自分の考えを持つことができた。	A	B	C
本時の感想			

自己評価票 3

☆第3時限の目標

調査内容を多角的に分析、判断して、調査してわかったこと、気づいたことを適切にまとめ、ものの見方や考え方を深める。

項 目	評 価		
1 他の班の発表をよく聞いて、調査内容を多角的に分析することができた。	A	B	C
2 班員全員の調査・考察内容を整理して、調査してわかったこと、気づいたことを適切にまとめることができた。	A	B	C
3 テーマについて自分の考えを深めることができた。	A	B	C
本時の感想			

自己評価票 4

☆第4時限の目標

他の班員たちが資料から読み取った情報を的確に活用し、場に応じた表現を意識して、レジュメ、発表原稿を適切にまとめる。

項 目	評 価		
1 他の班員たちが資料から読み取った情報を的確に活用してレジュメ・発表原稿を適切にまとめることができた。	A	B	C
2 レジュメ・発表原稿など、場に応じた言語の使い分けをすることができた。	A	B	C
3 工夫してレジュメ・発表原稿をまとめることができた。	A	B	C
本時の感想			

自己評価票 5

☆第5時限の目標

発表者は、発表内容が聞き手に効果的に伝わるようにする。聞き手は、レジュメの内容を的確に読み取り、発表をよく聴いて自分の考えを深める。

項 目	評 価		
1 レジュメの内容を的確に読み取り、自分の考えを深めることができた。	A	B	C
2 他の班の発表をよく聴いて、メモをとることができた。	A	B	C
3 発表原稿をなるべく見ないで、聞き手に伝わるように発表できた。	A	B	C
本時の感想			

自己評価票 6

☆第6時限の目標

レジュメの内容を的確に読み取り、より適切にまとめて、自分の考えを深める。

項 目	評 価		
1 他の班のレジュメの内容を的確に読み取り、適切にまとめることができた。	A	B	C
2 他の班のレジュメの内容を理解し、自分の考えを深めることができた。	A	B	C
3 この単元の学習を通して、古典に対して、より興味・関心を持った。	A	B	C
本単元の感想			

生徒の感想の例（「自己評価票6」から）

資料3

- 自分が疑問に思っていたことを、調査・考察・発表する授業をして、毎日遅くまで、図書館やインターネットで調べたりして、とても勉強になりました。いろいろな調査をして、協力して調べたことを、たくさんの人に聴いてもらったり、知ってもらえたことに、一番のやりがいを感じ、達成感も感じました。
- 今まで古典のことについて、あまり知らなかったけれど、自分たちで調べたり、みんなが調べたことを聴いたりして、昔の人たちのことがとてもよくわかりました。これからの古典の授業では、前よりも、よく考えて口語訳することができると思います。平安時代の人たちの生活などが知れて、とてもよかったです。
- 今回の授業を通して、自分が興味をひかれたことを、調査・考察・発表することで、普段の授業にはない理解や達成感を得ることができました。これまでは、いつも、疑問に思うことがあっても、深く調べようとしなかったのが、これからは、疑問に思ったことは自分で調べるようにしようと思いました。
- 私は、他の班が研究授業で発表した「物の怪」について、興味をひかれました。昔の人が、「物の怪」について、どのように思っていたのか、「物の怪」とはどのようなものなのか、について、もっと知りたいので、「物の怪」がでてくる物語をたくさん読んでみたいと思いました。

自己評価のフィードバックの例

(1) 助言によりの確に自己評価できるようになった例

生徒 K 第 1 時の自己評価

項 目	評 価
1 学習目標・学習内容・必ずやらなければならないこと・評価の観点について理解できた。	A (B) C
2 古典講読の授業を通して、疑問に思ったこと・興味をひかれたことについて、自ら進んで意見を述べ、積極的に話し合いに参加できた。	A (B) C
3 テーマ設定の理由を明確にし、自分たちの調査・考察するテーマを決定できた。	A (B) C

本時の感想
古典講読の授業を受けて、疑問を持っていたことについて積極的に意見を述べる事ができた。自分が中心となってみんなの意見をまとめ、テーマを決定することができたのでとてもよかったと思う。

教師の観察評価：A

- ・学習プリントの記入状況が良好である。
- ・昼休みや放課後も意欲的に課題に取り組んでいる。

助言

- ・実態を踏まえ、到達目標に照らして、取り組み状況が「充分満足」であることを具体的な言葉で伝えて褒める。

第 2 時の自己評価

項 目	評 価
1 テーマに応じた調査を行うことができた。	(A) B C
2 情報の内容から必要で適切な情報を的確に読みとり、整理してまとめることができた。	(A) B C
3 テーマについて自分の考えを持つことができた。	(A) B C

本時の感想
調査内容にあった本から必要な情報をきちんと読み取ることができた。また、分かりやすくまとめることができたのでテーマについてよく知り、自分の考えを深めることができた。放課後、図書館で他の本を調べたいと思う。

第 6 時の自己評価

項 目	評 価
1 他の班のレジュメの内容を的確に読み取り、適切にまとめることができた。	(A) B C
2 他の班のレジュメの内容を理解し、自分の考えを深めることができた。	(A) B C
3 今回の授業を通して、古典に対して、より興味・関心を持った。	(A) B C

本時の感想
しっかりとメモが取れていたし、レジュメの内容もよくまとめることができたので、いろいろなテーマについて自分の考えを深めることができたと思う。今回の授業は、授業中だけではなく毎日放課後、頑張って調べたりしたので、すごく自分のためになったと思う。また、とても印象に残る授業になったと思う。

(2) 生徒・教師共に B と評価した生徒を、助言により A の状況に導いた例

生徒 S 第 1 時の自己評価

項 目	評 価
1 学習目標・学習内容・必ずやらなければならないこと・評価の観点について理解できた。	A (B) C
2 古典講読の授業を通して、疑問に思ったこと・興味をひかれたことについて、自ら進んで意見を述べ、積極的に話し合いに参加できた。	A (B) C
3 テーマ設定の理由を明確にし、自分たちの調査・考察するテーマを決定できた。	A (B) C

本時の感想
自分の意見は、言えなかったけど、調査するテーマが決まったのでよかったと思う。

教師の観察評価：B

- ・学習プリントの記入状況がおおむね満足できる状況である。
- ・意欲は高くはない。

助言

- ・実態を踏まえ、到達目標に照らして、より意欲的な取り組みを促す。

第 4 時の自己評価

項 目	評 価
1 他の班員たちが資料から読み取った情報を的確に活用して、レジュメ・発表原稿を適切にまとめることができた。	A (B) C
2 レジュメ・発表原稿など、場に応じた言語の使い分けをすることができた。	A (B) C
3 工夫してレジュメ・発表原稿をまとめることができた。	A (B) C

本時の感想
一生懸命やっただけ、まだ最後までまとめることができなかった。けど、なかなかいい感じの発表原稿になっていってると思う。今日はバイトなので、明日のこって頑張る。

教師の観察評価：B

- ・レジュメ・発表原稿のまとめに意欲的に取り組んだが、まとめ終わっていない。

助言

- ・実態を踏まえ、到達目標に照らして、より意欲的な取り組みを促す。

第 5 時の自己評価

項 目	評 価
1 レジュメの内容を的確に読み取り、自分の考えを深めることができた。	(A) B C
2 他の班の発表をよく聴いて、メモをとることができた。	(A) B C
3 研究授業という緊張感があふれるなか、自分なりによく頑張った。	(A) B C

本時の感想
発表を聴いてメモをとれたし、レジュメを読んでもしかり理解できた。皆よく調べてあって、わかりやすくまとめたのすごいと思った。やっぱり、研究授業はすごい緊張した。けど、すごい頑張った。

- ・学習への取組状況が改善されたことを褒める。

生徒発表用レジュメ例

第2班

源氏物語

葵の上

光源氏は魔性の美貌の持ち主で自分の身分と魅力を活用して多くの女性と恋に落ちた。そのため毒である「葵の上」は多くの女性から恨まれていた。そんな時、葵の上は六条御息所との車争いで六条御息所の車を傷つけてしまう。六条御息所は車争いの恨みと自分から光源氏を奪った嫉妬から生霊となり葵の上にとり憑き彼女を苦しませた。葵の上は男子を出産後、六条木御息所の物の怪のため死んでしまった。

物の怪・悪霊

外から侵入し個人の肉体や精神を奪うもの



昔

物の怪の存在を信じていて病や自然現象を物の怪の仕業と思ひ恐れれていた。

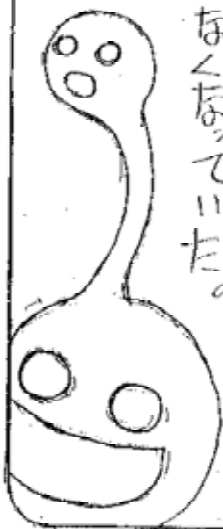
現代

物の怪を非科学的なものとして見るが物の怪の存在を感じたり意識することがある。

伊勢物語

芥川

昔、男が手に入れられえうもないう女に求婚し続けた。ある夜、なんとかして女を盗み出し暗い夜道を逃げた。芥川を疲れた時、草の上の露をみれば何ですか？と女が問いかけた。行き先は遠く夜も更けたので、森に女を押し入れ男は追手を戸口で警戒していた。男が早く夜が明け欲しいと思っているところ、女が現われて女を一口で食べてしまった。女は「あー」と言ったが男は気付かず、朝になって女の方を見ると女がいなくなっていた。



参考文献	まとめ	現代	平安時代の恋愛
講座現代・女の一生(恋愛・結婚) 岩波書店。インターネット	平安時代など、昔の女性には何の権利も与えられていなかったために、妻や愛人が複数いたり、自分達で愛する人と結婚できないうちから、自分が普通通だった。しかし、今も昔も人を愛する気持ちに変わりはないと思う。	一夫一婦制 恋愛は自由 現代の愛に対する考え方 愛はまず相手の存在の尊厳を認めたらうで、お互いがよりよく生きることを実現するものでなければ、本当の愛とはいえない。	一夫多妻制 多くの貴族たちが、複数の妻を持っていた。律令上は妻は一人と決められていた。しかし、誰が妻であるかを法的に示す必要はなかった。 招婿結婚(しよせいけい)。 どのようになつたか、これ。 才色兼備、家柄よし、家付き、財産有り が条件だった。 非法婚姻 当時は、婚姻届けすらなかった。たのて、離婚は夫が通わなくなれば自然と離婚したことになる。 夜は夫の夢のもとに毎晩通り、夜明け前までに帰るといふものだった。 一夫一婦制

昔の身分の高い人には複数の名前があった!

源義経	幼名	呼ばれ名	① 幼名：生まれた時に最初につける名前 ② いみな：元服後につける名前。 いみなは決して呼んではいけ ないものだった。大人の面前 には絶対使われない。そのため、 いたがでである。そのため、 頻りに相手と名前を呼ぶとい うことは、その人の魂を奪い てしまう事だと考えられてい た。 ③ 呼び名：元服後、いみなの他につけ られた名前。他人から呼ばれて もよい名前。相手に対して敬 意を表す一つの方法。 ④ 名乗り：戦の時に自分の名をい まふこと。正々堂々と名乗ること。
-----	----	------	---